

富谷市の財務書類

平成29年度決算

平成31年3月

富谷市財政課

1. はじめに

現在の地方公共団体の会計は、予算の適正かつ確実な執行に資する現金主義が採用されています。

これに対し、地方公会計制度は、「現金主義・単式簿記」によるこれまでの地方公共団体の会計制度に「発生主義・複式簿記」といった企業会計的要素を取り込むことにより、現金主義では見えにくいコスト情報や資産・負債といったストック情報の把握を可能とし、地方公共団体の財政状況等をわかりやすく開示するとともに、資産・債務の適正管理や有効活用につなげるものです。

地方公会計の整備については、平成18年に総務省から「基準モデル」及び「総務省方式改訂モデル」が示され、各地方公共団体において財務書類の作成を進めてきました。

しかし、財務書類の作成方法が複数あるため、各地方公共団体間での比較が困難であることや多くの地方公共団体において既存の決算統計データを活用した簡便な作成方法である総務省改訂モデルが採用され、本格的な複式簿記の導入や固定資産台帳の整備が不十分であるといった課題がありました。

このため、総務省において平成27年1月に「統一的な基準による地方公会計マニュアル」が公表され、平成29年度までの3年間にすべての地方公共団体において作成することとなりました。

富谷市では、平成21年度決算から「総務省方式改訂モデル」に基づき財務書類の作成・公表を行っていましたが、平成28年度決算から「統一的な基準」による財務書類を作成・公表することといたしました。

2. 対象会計範囲

一般会計等	一般会計
全 体	<ul style="list-style-type: none">・「一般会計等」・地方公営企業会計<ul style="list-style-type: none">…水道事業会計・特別会計<ul style="list-style-type: none">…国民健康保険特別会計， 介護保険特別会計， 後期高齢者医療特別会計 <p>※下水道事業特別会計は、平成32年度からの地方公営企業法適用に向けて固定資産台帳整備等の作業中であるため、総務省の指針に基づき、連結対象から除外しています。</p>
連 結	<ul style="list-style-type: none">・「全体」・一部事務組合・広域連合<ul style="list-style-type: none">…吉田川流域溜池大和町3市3ヶ町村組合， 黒川地域行政事務組合，

	宮城県市町村職員退職手当組合，宮城県市町村自治振興センター， 宮城県非常勤消防団員補償報償組合，宮城県後期高齢者医療広域連合
--	---

3. 財務書類について

●貸借対照表

貸借対照表は、会計年度末時点で、地方公共団体がどのような資産を保有しているのかと、その資産がどのような財源でまかなわれているのかを、対照表示した財務書類です。貸借対照表により、会計年度末における地方公共団体の財政状態（資産・負債・純資産といったストック項目の残高）を読み取ることができます。

「資産」は、①将来の資金流入をもたらすもの、②将来の行政サービス提供能力を有するものに整理されます。「負債」とは、将来、債権者に対する支払いや返済により地方公共団体から資金流出をもたらすものであり、地方債がその主たる項目です。また「純資産」は、資産と負債の差額ですが、民間企業のように資本の獲得等に関する取引の結果ではありません。

●行政コスト計算書

行政コスト計算書は、一会計期間において、資産形成に結びつかない経常的な行政活動に係る費用（経常的な費用）と、その行政活動と直接の対価性のある使用料・手数料などの収益（経常的な収益）を示した財務書類です。これにより、その差額として地方公共団体の一会計期間中の行政活動のうち、資産形成に結びつかない経常的な活動について税収等でまかなうべき行政コスト（純経常費用：純経常行政コスト）が明らかになります。

●純資産変動計算書

純資産変動計算書は、貸借対照表の純資産の部に計上されている各項目が、1年間でどのように変動したかを表す財務書類です。

純資産変動計算書においては、地方税、地方交付税などの一般財源、国県支出金などの特定財源が純資産の増加要因として直接計上され、行政コスト計算書で算出された純経常費用（純経常行政コスト）が純資産の減少要因として計上されることなどを通じて、1年間の純資産総額の変動を把握することができます。

●資金収支計算書

資金収支計算書は、一会計期間における地方公共団体の行政活動に伴う現金等の資金の流れを性質の異なる三つの活動に分けて表示した財務書類です。現金等の収支の流れを表したものであることから、キャッシュ・フロー計算書とも呼んでいます。

貸借対照表

(平成30年3月31日現在)

(単位:百万円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	62,033	固定負債	6,002 ※
有形固定資産	57,606 ※	地方債	6,288
事業用資産	38,334	長期未払金	0
土地	24,807	退職手当引当金	△ 285
立木竹	189	損失補償等引当金	-
建物	23,610	その他	-
建物減価償却累計額	△ 11,061	流動負債	1,044
工作物	2,292	1年内償還予定地方債	464
工作物減価償却累計額	△ 1,505	未払金	1
船舶	-	未払費用	-
船舶減価償却累計額	-	前受金	-
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	163
航空機	-	預り金	416
航空機減価償却累計額	-	その他	-
その他	-	負債合計	7,046
その他減価償却累計額	-	【純資産の部】	
建設仮勘定	2	固定資産等形成分	65,654
インフラ資産	19,179	余剰分(不足分)	△ 5,931
土地	3,332		
建物	-		
建物減価償却累計額	-		
工作物	33,832		
工作物減価償却累計額	△ 17,997		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
建設仮勘定	12		
物品	408		
物品減価償却累計額	△ 314		
無形固定資産	2		
ソフトウェア	2		
その他	-		
投資その他の資産	4,425 ※		
投資及び出資金	575		
有価証券	16		
出資金	29		
その他	530		
投資損失引当金	-		
長期延滞債権	106		
長期貸付金	143		
基金	3,608		
減債基金	205		
その他	3,403		
その他	-		
徴収不能引当金	△ 8		
流動資産	4,736 ※		
現金預金	1,082		
未収金	41		
短期貸付金	0		
基金	3,621		
財政調整基金	3,621		
減債基金	-		
棚卸資産	-		
その他	-		
徴収不能引当金	△ 7		
資産合計	66,769	純資産合計	59,723
		負債及び純資産合計	66,769

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

行政コスト計算書

自 平成29年4月1日
至 平成30年3月31日

(単位:百万円)

科目	金額
経常費用	13,067
業務費用	8,076
人件費	2,232
職員給与費	1,906
賞与等引当金繰入額	163
退職手当引当金繰入額	-
その他	163
物件費等	5,719
物件費	3,981
維持補修費	366
減価償却費	1,369
その他	3
その他の業務費用	125
支払利息	53
徴収不能引当金繰入額	8
その他	64
移転費用	4,991
補助金等	1,683
社会保障給付	2,440
他会計への繰出金	867
その他	1
経常収益	635
使用料及び手数料	103
その他	532
純経常行政コスト	△ 12,432
臨時損失	160
災害復旧事業費	-
資産除売却損	160
投資損失引当金繰入額	-
損失補償等引当金繰入額	-
その他	-
臨時利益	2,394
資産売却益	34
その他	2,360
純行政コスト	△ 10,198

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。
令和元年5月20日 数値の集計に誤りがあったため、赤字で修正しています。

純資産変動計算書

自 平成29年4月1日

至 平成30年3月31日

(単位:百万円)

科目	合計	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)
前年度末純資産残高	57,986	65,926	△ 7,940
純行政コスト(△)	△ 10,198		△ 10,198
財源	12,081		12,081
税収等	9,110		9,110
国県等補助金	2,971		2,971
本年度差額	1,883		1,883
固定資産等の変動(内部変動)		591	△ 591
有形固定資産等の増加		1,199	△ 1,199
有形固定資産等の減少		△ 486	486
貸付金・基金等の増加		315	△ 315
貸付金・基金等の減少		△ 437	437
資産評価差額	0	0	
無償所管換等	361	361	
その他	△ 507	△ 1,224	717
本年度純資産変動額	1,737	△ 272	2,009
本年度末純資産残高	59,723	65,654	△ 5,931

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

資金収支計算書

自 平成29年4月1日
至 平成30年3月31日

(単位:百万円)

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	11,683 ※
業務費用支出	6,693
人件費支出	2,225
物件費等支出	4,356
支払利息支出	53
その他の支出	59
移転費用支出	4,991
補助金等支出	1,683
社会保障給付支出	2,440
他会計への繰出支出	867
その他の支出	1
業務収入	11,938
税込等収入	9,110
国県等補助金収入	2,303
使用料及び手数料収入	104
その他の収入	421
臨時支出	-
災害復旧事業費支出	-
その他の支出	-
臨時収入	173
業務活動収支	428
【投資活動収支】	
投資活動支出	1,431 ※
公共施設等整備費支出	818
基金積立金支出	475
投資及び出資金支出	27
貸付金支出	112
その他の支出	-
投資活動収入	996
国県等補助金収入	495
基金取崩収入	346
貸付金元金回収収入	121
資産売却収入	34
その他の収入	-
投資活動収支	△ 435
【財務活動収支】	
財務活動支出	420
地方債償還支出	420
その他の支出	-
財務活動収入	423
地方債発行収入	423
その他の収入	-
財務活動収支	2 ※
本年度資金収支額	△ 5
前年度末資金残高	671
本年度末資金残高	666
前年度末歳計外現金残高	422
本年度歳計外現金増減額	△ 6
本年度末歳計外現金残高	416
本年度末現金預金残高	1,082

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

一般会計等財務書類 注記

1. 重要な会計方針

(1) 有形固定資産及び無形固定資産の評価基準及び評価方法

- ① 有形固定資産……………取得原価
ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。
ア 昭和59年度以前に取得したもの……………再調達原価
ただし、道路、河川及び水路の敷地は備忘価格1円としています。
イ 昭和60年以後に取得したもの
取得原価が判明しているもの……………取得原価
取得価格が不明なもの……………再調達原価
ただし、取得原価が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価格1円としています。
- ② 無形固定資産……………取得原価
ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。
取得原価が判明しているもの……………取得原価
取得原価が不明なもの……………再調達原価

(2) 有価証券等の評価基準及び評価方法

- ① 満期保有目的有価証券……………償却原価法(定額法)
- ② 満期保有目的以外の有価証券
ア 市場価格のあるもの……………会計年度末における市場価格
(売却原価は移動平均法により算定)
イ 市場価格のないもの……………取得原価
- ③ 出資金
ア 市場価格のあるもの……………会計年度末における市場価格
(売却原価は移動平均法により算定)
イ 市場価格のないもの……………出資金額

(3) 有形固定資産等の減価償却の方法

- ① 有形固定資産(リース資産を除きます。)……………定額法
なお、主な耐用年数は以下のとおりです。
建物 8年～50年
工作物 5年～60年
物品 2年～20年
- ② 無形固定資産(リース資産を除きます。)……………定額法
(ソフトウェアについては、本市における見込利用期間(5年)に基づく定額法によっています。)
- ③ 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産(リース期間が1年以内のリース取引及びリース契約1件あたりのリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。)……………自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法

(4) 引当金の計上基準及び算定方法

- ① 投資損失引当金
市場価格のない投資及び出資金のうち、連結対象団体(会計)に対するものについて、実質価格が著しく低下した場合における実質価格と取得価格との差額を計上しています。
- ② 徴収不能引当金
未収金及び長期延滞債権については、過去5年間の平均不能欠損率により、徴収不能見込額を計上しています。
- ③ 退職手当引当金
退職手当債務から組合への加入時以降の負担金の累計額から既に職員に対し退職手当として支給された額の総額を控除した額に、組合における積立金額の運用益のうち富谷市へ按分される額を加算した額を控除した額を計上しています。
- ④ 損失補償等引当金
履行すべき額が確定していない損失補償債務等のうち、地方公共団体の財政の健全化に関する法律に規定する将来負担比率の算定に含めた将来負担額を計上しています。
- ⑤ 賞与等引当金
翌年度6月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

(5) リース取引の処理方法

① ファイナンス・リース取引

ア 所有権移転ファイナンス・リース取引(リース期間が1年以内のリース取引及びリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます)
通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

イ ア以外のファイナンス・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

② オペレーティング・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

(6) 資金収支計算書における資金の範囲

現金(手許現金及び要求払預金)及び現金同等物

なお、現金及び現金同等物には、出納整理期間における取引により発生する資金の受払いを含んでいます。

(7) その他財務書類作成のための基本となる重要な事項

① 物品及びソフトウェアの計上基準

物品については、取得価格又は見積価格が50万円(美術品は300万円)以上の場合に資産として計上しています。

ソフトウェアについても物品の取扱いに準じています。

② 資本的支出と修繕費の区分基準

資本的支出と修繕費の区分基準については、金額が60万円未満であるときに修繕費として処理しています。

2. 重要な会計方針の変更等

(1) 会計方針の変更

退職手当引当金の算定方法は、従来、期末自己都合要支給額を計上していましたが、退職手当組合に加入しているため、本年度から退職手当債務から組合への加入時以降の負担金の累計額から既に職員に対し退職手当として支給された額の総額を控除した額に、組合における積立金額の運用益のうち富谷市へ按分される額を加算した額を控除した額を計上しています。

(2) 表示方法の変更

重要な表示変更はありません。

(3) 資金収支計算書における資金の範囲の変更

重要な資金の範囲の変更はありません。

3. 重要な後発事象

(1) 主要な業務の改廃

主要な業務の改廃はありません。

(2) 組織・機構の大幅な変更

組織・機構の大幅な変更はありません。

(3) 地方財政制度の大幅な改正

地方財政制度の大幅な改正はありません。

(4) 重大な災害等の発生

重大な災害等の発生はありません。

(5) その他重要な後発事象

その他重要な後発事象はありません。

4. 偶発債務

(1) 保証債務及び損失補償債務負担の状況

他の団体の金融機関等からの借入債務に対し、保証を行っています。

団体(会計)名	確定債務額	履行すべき額が確定していない損失保証		総額
		損失補償引当金計上額	貸借対照表未計上額	
宮城県信用保証協会	109百万円	—	—	109百万円

(2) 係争中の訴訟等で損害賠償等の請求を受けているもの

重要な係争中の訴訟はありません。

(3) その他主要な偶発債務

その他主要な偶発債務はありません。

5. 追加情報

(1) 財務書類の内容を理解するために必要と認められる事項

① 一般会計等財務書類の対象範囲は次のとおりです。

一般会計

② 一般会計等と普通会計の対象範囲等の差異はありません。

③ 地方自治法第235条の5に基づき出納整理期間が設けられている会計においては、出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。

④ 百万円未満を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。

⑤ 地方公共団体の財政の健全化に関する法律における健全化判断比率の状況は、次のとおりです。

実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
—	—	-2.10%	—

⑥ 利子補給等に係る債務負担行為の翌年度以降の支出予定額

55百万円

⑦ 繰越事業に係る将来の支出予定額

繰越明許費	事故繰越額	継続費の通次繰越額
286百万円	4百万円	—百万円

⑧ 過年度修正等に関する事項

過年度の資産の計上に誤りがあったため、本会計年度において修正を行っています。

この修正により、本年度の貸借対照表の資産の部において、事業用資産・土地が22百万円増加、事業用資産・建物が16百万円減少、インフラ資産・工作物が302百万円増加、インフラ資産・土地が2百万円減少、物品が13百万円増加、長期延滞債権が25百万円増加、長期貸付金が68百万円減少、未収金が669百万円減少し、純資産の部において、固定資産等形成分が393百万円減少しています。

また、その他必要な修正を行っています。

(2) 財務書類の内容を理解するために必要と認められる事項

① 売却可能資産の範囲及び内訳は、次のとおりです。

ア 範囲

普通財産のうち活用が図られていない公共財産

イ 内訳

事業用資産 土地 630百万円

平成30年3月31日時点における売却可能価格を記載しています。

売却可能価格は、路線価における評価方法によっています。

② 減債基金に係る積立不足の有無及び不足額

積立不足はありません。

③ 基金借入金(繰替運用)の内容

基金の名称	期間	繰替運用額
財政調整基金	H29.5.9~H29.6.9	500百万円
財政調整基金	H30.2.27~H30.3.23	300百万円

④ 地方交付税措置のある地方債のうち、将来の普通交付税の算定基礎である基準財政需要額に含まれることが見込まれる金額

9,030百万円

⑤ 地方公共団体の財政の健全化に関する法律における将来負担比率の算定要素は、次のとおりです。

項目	金額
標準財政規模	9,008 百万円
元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需要額算入額	814 百万円
将来負担額	7,830 百万円
充当可能基金額	8,760 百万円
特定財源見込額	139 百万円
地方債現在高等に係る基準財政需要額算入見込額	9,030 百万円

⑥ 地方自治法第234条の3に基づく長期継続契約で貸借対照表に計上されたリース債務金額

— 百万円

(3) 純資産変動計算書に係る事項

純資産における固定資産等形成分及び余剰分(不足分)の内容

① 固定資産等形成分

固定資産の額に流動資産における短期貸付金及び基金等を加えた額を計上しています。

② 剰余分(不足分)

純資産合計額のうち、固定資産等形成分を差し引いた金額を計上しています。

(4) 資金収支計算書に係る事項

① 基礎的財政収支

46百万円

資金収支計算書上の業務活動収支(支払利息支出を除く。)及び投資活動収支を合算して算出してい

② 既存の決算情報との関連性

	収入(歳入)		支出(歳出)	
歳入歳出決算書	13,999	百万円	13,235	百万円
繰越金に伴う差額	△ 470	百万円	—	百万円
平成29年度決算における剰余金を財政調整基金の積み立てたことにより生じた差額	—	百万円	300	百万円
資金収支計算書	13,530	百万円	13,534	百万円

繰越金については、歳入歳出決算書では収入として計上しますが、資金収支計算書では計上しないため、当該金額分だけ相違します。

平成29年度決算における剰余金のうち富谷市財政調整基金条例第3条第2項の規定により基金に積み立てた金額については、資金収支計算書では収入として計上しますが、歳入歳出決算書では計上しないため、当該金額分だけ相違します。

③ 資金収支計算書の業務活動収支と純資産変動計算書の本年度差額との差額の内訳

資金収支計算書

業務活動収支	428	百万円
投資活動収入の国県等補助金収入	495	百万円
未収債権、未払債務等の増加	2,626	百万円
減価償却費	△ 1,369	百万円
賞与等引当金繰入額	△ 163	百万円
退職手当引当金繰入額	—	百万円
徴収不能引当金繰入額	△ 8	百万円
資産除売却益	△ 126	百万円
純資産変動計算書の本年度差額	1,883	百万円

④ 一時借入金

資金収支計算書上、一時借入金の増減額は含まれていません。

なお、一時借入金の限度額及び利子額は次のとおりです。

一時借入金の限度額 300百万円

一時借入金の利子 0百万円

⑤ 重要な非資金取引

重要な非資金取引はありません。

全体貸借対照表

(平成30年3月31日現在)

(単位:百万円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	67,393 ※	固定負債	8,986 ※
有形固定資産	62,519	地方債等	7,291
事業用資産	38,334	長期未払金	0
土地	24,807	退職手当引当金	△ 318
土地減損損失累計額	0	損失補償等引当金	0
立木竹	189	その他	2,012
立木竹減損損失累計額	0	流動負債	1,218 ※
建物	23,610	1年内償還予定地方債等	555
建物減価償却累計額	△ 11,061	未払金	74
建物減損損失累計額	0	未払費用	0
工作物	2,292	前受金	0
工作物減価償却累計額	△ 1,505	前受収益	0
工作物減損損失累計額	0	賞与等引当金	172
船舶	0	預り金	416
船舶減価償却累計額	0	その他	2
船舶減損損失累計額	0	負債合計	10,204
浮標等	0	【純資産の部】	
浮標等減価償却累計額	0	固定資産等形成分	72,455
浮標等減損損失累計額	0	余剰分(不足分)	△ 7,233
航空機	0		
航空機減価償却累計額	0		
航空機減損損失累計額	0		
その他	0		
その他減価償却累計額	0		
その他減損損失累計額	0		
建設仮勘定	2		
インフラ資産	23,954		
土地	4,017		
土地減損損失累計額	0		
建物	201		
建物減価償却累計額	△ 99		
建物減損損失累計額	0		
工作物	41,623		
工作物減価償却累計額	△ 21,800		
工作物減損損失累計額	0		
その他	0		
その他減価償却累計額	0		
その他減損損失累計額	0		
建設仮勘定	12		
物品	1,262		
物品減価償却累計額	△ 1,031		
物品減損損失累計額	0		
無形固定資産	2 ※		
ソフトウェア	2		
その他	1		
投資その他の資産	4,872		
投資及び出資金	575		
有価証券	16		
出資金	29		
その他	530		
投資損失引当金	0		
長期延滞債権	206		
長期貸付金	143		
基金	3,956		
減債基金	205		
その他	3,751		
その他	0		
徴収不能引当金	△ 8		
流動資産	8,033 ※		
現金預金	2,819		
未収金	160		
短期貸付金	0		
基金	5,062		
財政調整基金	5,062		
減債基金	0		
棚卸資産	12		
その他	0		
徴収不能引当金	△ 19		
繰延資産	0		
資産合計	75,426	純資産合計	65,222
		負債及び純資産合計	75,426

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

全体行政コスト計算書

自 平成29年4月1日
至 平成30年3月31日

(単位:百万円)

科目	金額
経常費用	20,405 ※
業務費用	9,454 ※
人件費	2,360
職員給与費	2,025
賞与等引当金繰入額	172
退職手当引当金繰入額	0
その他	163
物件費等	6,851
物件費	4,224
維持補修費	463
減価償却費	1,547
その他	617
その他の業務費用	242
支払利息	76
徴収不能引当金繰入額	25
その他	141
移転費用	10,951
補助金等	8,317
社会保障給付	2,441
他会計への繰出金	192
その他	1
経常収益	1,745
使用料及び手数料	1,028
その他	717
純経常行政コスト	△ 18,660
臨時損失	160
災害復旧事業費	0
資産除売却損	160
投資損失引当金繰入額	0
損失補償等引当金繰入額	0
その他	0
臨時利益	2,394
資産売却益	34
その他	2,360
純行政コスト	△ 16,426

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。
令和元年5月20日 数値の集計に誤りがあったため、赤字で修正しています。

全体純資産変動計算書

自 平成29年4月1日
至 平成30年3月31日

(単位:百万円)

科目	合計	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)
前年度末純資産残高	63,285	72,648	△ 9,363
純行政コスト(△)	△ 16,426		△ 16,426
財源	18,512		18,512
税収等	13,441		13,441
国県等補助金	5,071		5,071
本年度差額	2,086		2,086
固定資産等の変動(内部変動)		615 ※	△ 615 ※
有形固定資産等の増加		1,259	△ 1,259
有形固定資産等の減少		△ 705	705
貸付金・基金等の増加		499	△ 499
貸付金・基金等の減少		△ 437	437
資産評価差額	0	0	
無償所管換等	361	361	
その他	△ 511 ※	△ 1,169	659
本年度純資産変動額	1,937	△ 193	2,130
本年度末純資産残高	65,222	72,455	△ 7,233

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

全体資金収支計算書

自 平成29年4月1日
至 平成30年3月31日

(単位:百万円)

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	18,847 ※
業務費用支出	7,896 ※
人件費支出	2,352
物件費等支出	5,346
支払利息支出	76
その他の支出	121
移転費用支出	10,951
補助金等支出	8,317
社会保障給付支出	2,441
他会計への繰出支出	192
その他の支出	1
業務収入	19,121
税込等収入	13,446
国県等補助金収入	4,179
使用料及び手数料収入	1,030
その他の収入	466
臨時支出	0
災害復旧事業費支出	0
その他の支出	0
臨時収入	397
業務活動収支	672 ※
【投資活動収支】	
投資活動支出	1,666 ※
公共施設等整備費支出	869
基金積立金支出	659
投資及び出資金支出	27
貸付金支出	112
その他の支出	0
投資活動収入	996
国県等補助金収入	495
基金取崩収入	346
貸付金元金回収収入	121
資産売却収入	34
その他の収入	0
投資活動収支	△ 670
【財務活動収支】	
財務活動支出	509
地方債償還支出	509
その他の支出	0
財務活動収入	423
地方債発行収入	423
その他の収入	0
財務活動収支	△ 86
本年度資金収支額	△ 85 ※
前年度末資金残高	2,488
本年度末資金残高	2,403
前年度末歳計外現金残高	422
本年度歳計外現金増減額	△ 6
本年度末歳計外現金残高	416
本年度末現金預金残高	2,819

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

全体財務書類 注記

1. 重要な会計方針

(1) 有形固定資産等の評価基準及び評価方法

① 有形固定資産……………取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

ア 昭和59年度以前に取得したもの……………再調達原価

ただし、道路、河川及び水路の敷地は備忘価格1円としています。

イ 昭和60年度以後に取得したもの

取得原価が判明しているもの……………取得原価

取得原価が判明しているもの……………取得原価

ただし、取得原価が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価格1円としています。

② 無形固定資産……………取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

取得原価が判明しているもの……………取得原価

取得原価が不明なもの……………再調達原価

(2) 有価証券等の評価基準及び評価方法

① 満期保有目的有価証券……………償却原価法(定額法)

② 満期保有目的以外の有価証券

ア. 市場価格のあるもの……………会計年度末における市場価格
(売却原価は移動平均法により算定)

イ. 市場価格のないもの……………取得原価

③ 出資金

ア. 市場価格のあるもの……………会計年度末における市場価格
(売却原価は移動平均法により算定)

イ. 市場価格のないもの……………出資金額

(3) 有形固定資産等の減価償却の方法

① 有形固定資産(リース資産を除きます。)……………定額法

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物 8～50年

工作物 5～60年

物品 2～20年

② 無形固定資産(リース資産を除きます。)……………定額法

③ 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産(リース期間が1年以内のリース取引及びリース契約1件あたりのリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。)

……………自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法

(4) 引当金の計上基準及び算定方法

① 投資損失引当金

市場価格のない投資及び出資金のうち、連結対象団体(会計)に対するものについて、実質価格が著しく低下した場合における実質価格と取得価格との差額を計上しています。

② 徴収不能引当金

未収金及び長期延滞債権については、過去5年間の平均不能欠損率により、徴収不能見込額を計上しています。

③ 退職手当引当金

退職手当債務から組合への加入時以降の負担金の累計額から既に職員に対し退職手当として支給された額の総額を控除した額に、組合における積立金額の運用益のうち富谷市へ按分される額を加算した額を控除した額を計上しています。

④ 損失補償等引当金

履行すべき額が確定していない損失補償債務等のうち、地方公共団体の財政の健全化に関する法律に規定する将来負担比率の算定に含めた将来負担額を計上しています。

⑤ 賞与等引当金

翌年度6月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

(5) リース取引の処理方法

① ファイナンス・リース取引

ア 所有権移転ファイナンス・リース取引(リース期間が1年以内のリース取引及びリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます)

通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

イ ア以外のファイナンス・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

② オペレーティング・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

(6) 連結資金収支計算書における資金の範囲

現金(手許現金及び要求払預金)及び現金同等物

なお、現金及び現金同等物には、出納整理期間における取引により発生する資金の受払いを含んでいます。

(7) 採用した消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

2. 重要な会計方針の変更等
重要な会計方針の変更等はありません。

3. 重要な後発事象

- (1) 主要な業務の改廃
主要な業務の改廃はありません。
- (2) 組織・機構の大幅な変更
組織・機構の大幅な変更はありません。
- (3) 地方財政制度の大幅な改正
地方財政制度の大幅な改正はありません。
- (4) 重大な災害等の発生
重大な災害等の発生はありません。
- (5) その他重要な後発事象
その他重要な後発事象はありません。

4. 偶発債務

- (1) 保証債務及び損失補償債務負担の状況
他の団体の金融機関等からの借入債務に対し、保証を行っています。

団体(会計)名	確定債務額	履行すべき額が確定していない損失保証債務		総額
		損失補償引当金計上	貸借対照表未計上額	
宮城県信用保証協会	109百万円	—	—	109百万円

- (2) 係争中の訴訟等で損害賠償等の請求を受けているもの
重要な係争中の訴訟はありません。
- (3) その他主要な偶発債務
その他主要な偶発債務はありません。

5. 追加情報

- (1) 連結対象団体(会計)の一覧、連結の方法及び連結対象

団体(会計)名	区分	連結の方法	比例連結割合
一般会計	一般会計	—	—
国民健康保険特別会計	特別会計	全部連結	—
介護保険特別会計	特別会計	全部連結	—
後期高齢者医療特別会計	特別会計	全部連結	—
水道事業会計	公営事業会計	全部連結	—

① 地方公営企業会計は、すべて全部連結の対象としています。

ただし、地方公営企業法の財務規定等が適用されていない地方公営企業会計のうち、当該規定等の適用に向けた作業に着手しているもの(平成29年度までに着手かつ集中取組期間内に当該規定等を適用するものに限ります。)については、連結対象会計の対象外としています。したがって、一般会計等における他会計への繰入金等が内部相殺されない場合があります。

下水道事業会計 他会計繰入金 190百万円

- (2) 出納整理期間

地方自治法第235条の5に基づき出納整理期間が設けられている会計においては、出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。

なお、出納整理期間を設けていない会計と出納整理期間を設けている会計との間で、出納整理期間に現金の受払い等があった場合は、現金の受払い等が終了したものとして調整しています。

- (3) 表示単位未満の取扱い

百万円未満を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。

連結貸借対照表

(平成30年3月31日現在)

(単位:百万円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	72,810 ※	固定負債	11,994
有形固定資産	65,599 ※	地方債等	7,825
事業用資産	41,260	長期未払金	0
土地	24,918	退職手当引当金	2,156
土地減損損失累計額	0	損失補償等引当金	0
立木竹	189	その他	2,013
立木竹減損損失累計額	0	流動負債	1,370
建物	27,973	1年内償還予定地方債等	586
建物減価償却累計額	△ 13,322	未払金	78
建物減損損失累計額	0	未払費用	0
工作物	4,163	前受金	60
工作物減価償却累計額	△ 2,663	前受収益	0
工作物減損損失累計額	0	賞与等引当金	185
船舶	0	預り金	416
船舶減価償却累計額	0	その他	45
船舶減損損失累計額	0	負債合計	13,364
浮標等	0	【純資産の部】	
浮標等減価償却累計額	0	固定資産等形成分	77,940
浮標等減損損失累計額	0	余剰分(不足分)	△ 10,188
航空機	0	他団体出資等分	0
航空機減価償却累計額	0		
航空機減損損失累計額	0		
その他	0		
その他減価償却累計額	0		
その他減損損失累計額	0		
建設仮勘定	2		
インフラ資産	23,954		
土地	4,017		
土地減損損失累計額	0		
建物	201		
建物減価償却累計額	△ 99		
建物減損損失累計額	0		
工作物	41,623		
工作物減価償却累計額	△ 21,800		
工作物減損損失累計額	0		
その他	0		
その他減価償却累計額	0		
その他減損損失累計額	0		
建設仮勘定	12		
物品	1,561		
物品減価償却累計額	△ 1,175		
物品減損損失累計額	0		
無形固定資産	2 ※		
ソフトウェア	2		
その他	1		
投資その他の資産	7,209		
投資及び出資金	548 ※		
有価証券	16		
出資金	29		
その他	504		
長期延滞債権	206		
長期貸付金	143		
基金	6,319		
減債基金	205		
その他	6,114		
その他	0		
徴収不能引当金	△ 8		
流動資産	8,306		
現金預金	2,920		
未収金	215		
短期貸付金	0		
基金	5,130		
財政調整基金	5,130		
減債基金	0		
棚卸資産	12		
その他	48		
徴収不能引当金	△ 19		
繰延資産	0		
資産合計	81,116	純資産合計	67,752 ※
		負債及び純資産合計	81,116

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

連結行政コスト計算書

自 平成29年4月1日
至 平成30年3月31日

(単位:百万円)

科目	金額
経常費用	22,894
業務費用	10,251
人件費	2,721
職員給与費	2,307
賞与等引当金繰入額	185
退職手当引当金繰入額	1
その他	228
物件費等	7,132
物件費	4,267
維持補修費	493
減価償却費	1,730
その他	642
その他の業務費用	397 ※
支払利息	84
徴収不能引当金繰入額	25
その他	289
移転費用	12,643
補助金等	6,926
社会保障給付	5,216
他会計への繰出金	192
その他	309
経常収益	2,092 ※
使用料及び手数料	1,341
その他	750
純経常行政コスト	△ 20,802
臨時損失	161
災害復旧事業費	0
資産除売却損	161
損失補償等引当金繰入額	0
その他	0
臨時利益	2,394
資産売却益	34
その他	2,360
純行政コスト	△ 18,569

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。
令和元年5月20日 数値の集計に誤りがあったため、赤字で修正しています。

連結純資産変動計算書

自 平成29年4月1日
至 平成30年3月31日

(単位:百万円)

科目	合計	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)	他団体出資等分
前年度末純資産残高	65,316	75,343	△ 10,027	0
純行政コスト(△)	△ 18,569		△ 18,569	0
財源	20,930 ※		20,930 ※	0
税金等	15,552		15,552	0
国県等補助金	5,379		5,379	0
本年度差額	2,361		2,361	0
固定資産等の変動(内部変動)				
有形固定資産等の増加				
有形固定資産等の減少				
貸付金・基金等の増加				
貸付金・基金等の減少				
資産評価差額	0			
無償所管換等	294			
他団体出資等分の増加	0			
他団体出資等分の減少	0			
比例連結割合変更に伴う差額	0			
その他	△ 220 ※			
本年度純資産変動額	2,436 ※	2,597	△ 161	0
本年度末純資産残高	67,752	77,940 ※	△ 10,188	0

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

連結資金収支計算書

自 平成29年4月1日
至 平成30年3月31日

(単位:百万円)

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	
業務費用支出	
人件費支出	
物件費等支出	
支払利息支出	
その他の支出	
移転費用支出	
補助金等支出	
社会保障給付支出	
他会計への繰出支出	
その他の支出	
業務収入	
税込等収入	
国県等補助金収入	
使用料及び手数料収入	
その他の収入	
臨時支出	
災害復旧事業費支出	
その他の支出	
臨時収入	
業務活動収支	
【投資活動収支】	
投資活動支出	
公共施設等整備費支出	
基金積立金支出	
投資及び出資金支出	
貸付金支出	
その他の支出	
投資活動収入	
国県等補助金収入	
基金取崩収入	
貸付金元金回収収入	
資産売却収入	
その他の収入	
投資活動収支	
【財務活動収支】	
財務活動支出	
地方債等償還支出	
その他の支出	
財務活動収入	
地方債等発行収入	
その他の収入	
財務活動収支	
本年度資金収支額	△ 226
前年度末資金残高	2,730
比例連結割合変更に伴う差額	0
本年度末資金残高	2,504

前年度末歳計外現金残高	422
本年度歳計外現金増減額	△ 6
本年度末歳計外現金残高	416
本年度末現金預金残高	2,920 ※

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

連結財務書類 注記

1. 重要な会計方針

(1) 有形固定資産等の評価基準及び評価方法

- ① 有形固定資産……………取得原価
ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。
ア 昭和59年度以前に取得したもの……………再調達原価
ただし、道路、河川及び水路の敷地は備忘価格1円としています。
イ 昭和60年度以後に取得したもの
取得原価が判明しているもの……………取得原価
取得原価が判明しているもの……………取得原価
ただし、取得原価が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価格1円としています。
- ② 無形固定資産……………取得原価
ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。
取得原価が判明しているもの……………取得原価
取得原価が不明なもの……………再調達原価

(2) 有価証券等の評価基準及び評価方法

- ① 満期保有目的有価証券……………償却原価法(定額法)
- ② 満期保有目的以外の有価証券
ア. 市場価格のあるもの……………会計年度末における市場価格
(売却原価は移動平均法により算定)
イ. 市場価格のないもの……………取得原価
- ③ 出資金
ア. 市場価格のあるもの……………会計年度末における市場価格
(売却原価は移動平均法により算定)
イ. 市場価格のないもの……………出資金額

(3) 有形固定資産等の減価償却の方法

- ① 有形固定資産(リース資産を除きます。)……………定額法
なお、主な耐用年数は以下のとおりです。
建物 8～50年
工作物 5～60年
物品 2～20年
- ② 無形固定資産(リース資産を除きます。)……………定額法
- ③ 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産(リース期間が1年以内のリース取引及びリース契約1件あたりのリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。)……………自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法

(4) 引当金の計上基準及び算定方法

- ① 投資損失引当金
市場価格のない投資及び出資金のうち、連結対象団体(会計)に対するものについて、実質価格が著しく低下した場合における実質価格と取得価格との差額を計上しています。
- ② 徴収不能引当金
未収金及び長期延滞債権については、過去5年間の平均不能欠損率により、徴収不能見込額を計上しています。
- ③ 退職手当引当金
退職手当債務から組合への加入時以降の負担金の累計額から既に職員に対し退職手当として支給された額の総額を控除した額に、組合における積立金額の運用益のうち富谷市へ按分される額を加算した額を控除した額を計上しています。
- ④ 損失補償等引当金
履行すべき額が確定していない損失補償債務等のうち、地方公共団体の財政の健全化に関する法律に規定する将来負担比率の算定に含めた将来負担額を計上しています。
- ⑤ 賞与等引当金
翌年度6月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

(5) リース取引の処理方法

- ① ファイナンス・リース取引
ア 所有権移転ファイナンス・リース取引(リース期間が1年以内のリース取引及びリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます)
通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。
イ ア以外のファイナンス・リース取引
通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。
- ② オペレーティング・リース取引
通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

(6) 連結資金収支計算書における資金の範囲

現金(手許現金及び要求払預金)及び現金同等物
なお、現金及び現金同等物には、出納整理期間における取引により発生する資金の受払いを含んでいます。

(7) 採用した消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

2. 重要な会計方針の変更等
重要な会計方針の変更等はありません。

3. 重要な後発事象

- (1) 主要な業務の改廃
主要な業務の改廃はありません。
- (2) 組織・機構の大幅な変更
組織・機構の大幅な変更はありません。
- (3) 地方財政制度の大幅な改正
地方財政制度の大幅な改正はありません。
- (4) 重大な災害等の発生
重大な災害等の発生はありません。
- (5) その他重要な後発事象
その他重要な後発事象はありません。

4. 偶発債務

(1) 保証債務及び損失補償債務負担の状況
他の団体の金融機関等からの借入債務に対し、保証を行っています。

団体(会計)名	確定債務額	履行すべき額が確定していない損失保証債務等		総額
		損失補償引当金計上額	貸借対照表未計上額	
宮城県信用保証協会	109百万円	—	—	109百万円

- (2) 係争中の訴訟等で損害賠償等の請求を受けているもの
重要な係争中の訴訟はありません。
- (3) その他主要な偶発債務
その他主要な偶発債務はありません。

5. 追加情報

(1) 連結対象団体(会計)の一覧、連結の方法及び連結対象と

団体(会計)名	区分	連結の方法	比例連結割合
一般会計	一般会計	—	—
国民健康保険特別会計	特別会計	全部連結	—
介護保険特別会計	特別会計	全部連結	—
後期高齢者医療特別会計	特別会計	全部連結	—
水道事業会計	公営事業会計	全部連結	—
吉田川流域溜池大和町外3市3ヶ町村組合	一部事務組合・広域連合	比例連結	8.83%
黒川地域行政事務組合	一部事務組合・広域連合	比例連結	(一般会計) 24.50% (障害支援区分認定審査会特別会計) 35.20% (介護認定審査会特別会計) 36.10% (病院事業会計) 10.40% (訪問看護ステーション事業会計) 10.40%
宮城県市町村職員退職手当組合	一部事務組合・広域連合	比例連結	—
非常勤消防団員補償報償組合	一部事務組合・広域連合	比例連結	1.20%
宮城県市町村自治振興センター	一部事務組合・広域連合	比例連結	2.58%
宮城県後期高齢者医療広域連合	一部事務組合・広域連合	比例連結	(普通会計) 1.84% (事業会計) 1.24%

① 地方公営企業会計は、すべて全部連結の対象としています。

ただし、地方公営企業法の財務規定等が適用されていない地方公営企業会計のうち、当該規定等の適用に向けた作業に着手しているもの(平成29年度までに着手かつ集中取組期間内に当該規定等を適用するものに限り。)については、連結対象会計の対象外としています。したがって、一般会計等における他会計への繰入金等が内部相殺されない場合があります。

下水道事業会計 他会計繰入金 190百万円

② 一部事務組合・広域連合は、各構成団体の経費負担割合等に基づき比例連結の対象としています。

(2) 出納整理期間

地方自治法第235条の5に基づき出納整理期間が設けられている会計においては、出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。

なお、出納整理期間を設けていない会計と出納整理期間を設けている会計との間で、出納整理期間に現金の受払い等があった場合は、現金の受払い等が終了したものと調整しています。

(3) 表示単位未満の取扱い

百万円未満を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。